

# 国際協力

2020.10.1

秋号

No.65

JICA 駒ヶ根

## 特別派遣前訓練始まる

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、本年度の派遣前訓練は中止とし、2021年4月以降に延期することとなりました。この為、派遣前訓練延期中の2020年度1次隊合格者の希望者を対象に、特別派遣前訓練を実施すること



コーディネーターから説明を受ける訓練生

になりました。この訓練の目的は、地方が抱える課題を解決するための活動に参加しながら、コミュニケーションスキル、課題解決のために必要な思考方法を修得し、途上国での活動に必要な実践的な経験や知識を積むことです。また、地域に根差した訓練に参加することで、任期終了後、協力隊事業の目的の一つである「社会還元」を通じた日本の地域コミュニティの活性化に貢献する意識の醸成を図ることも狙いとしています。特別訓練では、全国の自治体等が受け入れ機関となります。2020年度1次隊約370名のうち約60名が参加希望を表明、8月26日からは11地域15ヶ所で35名、9月9日からは6地域6ヶ所で11名が活動を開始し、10月以降も活動が始まります。

駒ヶ根市では9月9日より3ヶ月間、2名の訓練生が活動しています。訓練生のうち一人は、静岡県出身、アフリカ南部のボツワナ派遣予定の渡邊博次さん。元銀行員の渡邊さんは、友人の協力隊OVの話に影響を受けて協力隊を志願しました。今回の訓練に対しては、「待機期間中、自分のできることを探していた。一人で活動の範囲を広げるには限界があり、可能性を広げるために参加を決意した。今回の訓練では、自身のボツワナでの活動に近い依頼内容があるので、この機会を存分に活かしたい」と意気込みを語ってくれました。

もう一人は愛知県出身、アフリカ西部ベナン派遣予定の佐野枝里菜さん。商社に勤めていた佐野さんには既にアフリカ滞在経験があります。その経験が忘れられず、協力隊参加を決意しました。佐野さんからは「これまでの勤務ではサポート側に回るが多かった。今回の訓練では自分でアイデアを出していくことに挑戦したい。外部の人間として新たな視点を提供していきたい」というコメントを頂きました。お二人とも気合十分の様子です！

これから二人は駒ヶ根市内、宮田村、高森町などを巡回し、活動を進めていきます。駒ヶ根市内

での主な活動先は駒ヶ根観光協会と地球人ネットワークinこまがね。前者からは、「一回きりのイベントでなく、商品化できるような旅行パッケージの提案」が求められ、後者からは、「日本語教室の実施や国際交流イベントの提案」が期待されています。一方、宮田村、高森町では空き家や研修施設の新しい利用法のアイデア出しに挑みます。

この3ヶ月間の訓練を通じて、訓練生の二人が存分に駒ヶ根市周辺エリアの魅力を知り、地域の課題解決を通じて多くのことを学んでほしいです。



駒ヶ根市内ぱとなの黒板に描かれた駒ヶ根市内の名所旧跡地を説明しているところ（事務所長の片桐さんによるチョークアート）



# 長野市でも 特別派遣前訓練始まる!

特別派遣前訓練は、8月26日から長野市でも始まっています。長野県社会福祉協議会が受け入れ先となり、伊那市出身の鈴木孝之さんが、昨年10月の台風19号の被災地である赤沼地区で活動していま



塚田農園でのお手伝い

す。予定されている主な活動内容は、これから最盛期を迎える信州リンゴの産地としての「価値」を高めるための企画への協力、果樹を中心とした農作業支援、各種団体・自治体等が企画するイ

ベントの実施・協力、被災地域の復興支援のための活動、地元ボランティア団体の支援などです。

2020年度1次隊として4月から訓練を始める予定であった鈴木さんは、子供のころ協力隊出身の先生が学校にいて、協力隊を身近に感じていたそうです。また自動車整備士を目指して進学した専門学校や、働いていた職場にも協力隊経験者がいたそうで

す。仕事をしていても、途上国の現状に関心があり、自分でも何か出来ることはないかと考えていた時に、自動車整備士として、自分の持つ技術を、途上国の若者に伝えることで、自分も途上国の発展に貢献できると考えて、協力隊に応募したとのこと。

取材当日、鈴木さんは果樹園で使う乗車型の草刈機の整備をしていました。台風の浸水により、農家さん達の持っていた農機具の多くは、使えなくなり新しく購入されたそうです。果樹園の忙しいこの時期、なかなか草刈機のメンテナンスまで手が回らない皆さんのお役に立ちたいと、自ら整備を申し出ました。また、機械の整備であれば、自分の持っている技術を活かせる絶好の機会でもあります。まずはほうきで、土や乾いた草を落とし、動く部品に油を挿し、エンジンの点検をしました。鈴木さんは、「草刈り機のメンテナンスも、今後一連のやり方を農家さんたちにお伝えして、自分がいなくなったあとも、効率的にメンテナンスができるようになって欲しい」と考えているそうです。



千曲川広域支援サテライト入口に立つ鈴木さん

希望制の特別派遣訓練になぜ参加したのか、鈴木さんに聞いてみると、「新型コロナウイルス感染症の影響で、JICAの初めての試みであるこの特別派遣前訓練が実施されると聞き、自分もチャレンジしてみたいと思いました。今回のような協力隊の日本国内への社会貢献を持続していくことで、今後も国内で協力隊による社会貢献につながるとうれしいと思います」とのこと。

「今回の特別訓練は、農業分野の支援とあり、自分が役立つことがあるかと心配でしたが、まずは、農作業のお手伝い、草刈り機のメンテナンスなどを通じて、住民の皆さんと知り合いコミュニケーションをとりながら、皆さんのニーズや課題を知り、課題解決に取り組んでいきたい」と抱負を述べてくれました。



草刈り機の整備中



# トンガに届け！ Ofa atu トンガ 絵本制作プロジェクト

青年海外協力隊(トンガ派遣)  
2018年度3次隊

こばやし まこ  
小林 真子さん (須崎市出身)



絵本に掲載する  
予定のイラスト  
(原口さん作)

この絵本制作プロジェクトは、私と同じトンガに派遣された2019年度1次隊の加藤美希さん(愛知県出身)、原口風花さん(長野県下条村出身)の提案により始動しました。コミュニティ開発隊員の加藤さんは、トンガで活動しているときから美術隊員の原口さんと協力して絵本や紙芝居を作成し、伝統食を残すための活動や食生活の指導に役立てたいと考えていたそうです。新型コロナウイルス流行により日本に一時帰国した後、国内でトンガのために出来ることはないかと2人で連絡を取り合っていたときに、改めてこの絵本制作のことが話題に上がり、SDGs(持続可能な開発目標)に絡めてトンガの紹介が出来る絵本を作ってみようということになりました。

その後、同じく一時帰国中だった新井雪那さん(埼玉県出身)、小林、すでに任期を終えて帰国していた尾上香織さん(熊本県出身)の参加も決まり、本格的に絵本制作を開始しました。

7月の下旬に駒ヶ根訓練所に加藤さん、原口さん、小林の3名が集まり、この絵本を作る目的や対象者、構成について打ち合わせを行いました。絵本はトンガ人にも日本人にも楽しんでもらえる一冊になればと考え、英語版と日本語版を作ることにしました。トンガ人に、私たち日本人から見たトンガの素晴らしさを伝えたいという願いを込めています。また、トンガではSDGsという言葉の認知度が低いいため、この絵本を読むことによってSDGsについて知ってもらい、自分にとって身近に感じてもらうことが出来ればと考えています。日本人には絵本を通してトンガのことを知ってもらい、トンガの暮らしから持続可能な生活について考えてもらいたいという願いを込めています。

絵本の中身は、トンガ人のシオネ君という小学生の一週間の生活を紹介することで、トンガの文化や生活

を知ることができる内容になっています。絵のページ以外にもトンガ料理のレシピ紹介やトンガの面白い風習を紹介するページなども合わせて約30ページあり、盛りだくさんの内容が詰まった本になる予定です。

絵本の絵は美術隊員の原口さん、ストーリーは加藤さん、コラムや情報を載せるページは新井さん、尾上さん、小林が担当しています。現在は2週間に1回程度オンラインのミーティングを開き、進捗状況や構成について話し合いをしています。

この絵本製作は、長野県諏訪市にあるセイコーエプソン社にご支援いただくことになり、英語版はバナナペーパーで、日本語版はエプソンの乾式オフィス製紙機『Paper Lab(ペーパーラボ)』で作られた再生紙を使用する予定です。なお、印刷・製本は、障がい者雇用促進を目的とするエプソンミズベ社で行っていただきます。

年内の完成を目指しており、完成した英語版の絵本はトンガへ送り、SDGsや自国の文化・暮らしについて考えるきっかけとして使ってもらおう予定です。日本語版は日本の学校での出前講座でトンガやSDGsの紹介のために活用したいと考えています。

トンガの人々は「Ofa atu」という言葉をよく使います。トンガ語で「愛する」という意味を持つ言葉ですが、トンガの人々はこの言葉を相手のことを思いやる言葉としてよく使います。この活動を通し、私たちの大好きなトンガとトンガの人々に向けて私たちのOfa(愛)を伝えることができればうれしいです。



新井雪那  
(2018年度1次隊・日本語教育)



小林真子  
(2018年度3次隊・卓球)



訓練所での打ち合わせをしている  
加藤さん(左)と原口さん(右)



尾上香織  
(2017年度1次隊・音楽)

# 青年海外協力隊長野県OB会の活動報告

青年海外協力隊長野県OB会は、毎年長野県内で様々な活動を実施しています。8月2日(日)、新型コロナウイルス感染症対策をしながら、年に1回のOB会総会が開催されました。総会には、28名が集まり、久しぶりに顔を合わせて、様々な情報交換が行われました。また、小林恭介さん(平成8年度 1次隊 エクアドル)がOB会の新会長となりました。

昨年度のOB会の活動の一つに、台風19号の被災地支援ボランティアがありました。この活動を報告した杉田威志前OB会長は、「協力隊は、何も無いところで、なんとかしよう、できると言える特殊能力を持っていて、災害ボランティアに向いている」とおっしゃっていました。OB会の多くの方が被災地支援に携わり、その活動は現在も続いています。

9月5日(土)、秋晴れの木曽路で、地域おこし協力隊として活動中の小川ひとみさんが企画した道の駅「日義木曾駒高原」フリーマーケットで、OB会メンバーが集まり、赴任した国の民族衣装を着て、活動紹介や文化紹介、協力隊応募についての説明を行いました。来場した子供たちには、「国旗当てクイズ」やシンハラ語



シンハラ語で名前を書ってもらった子供たち

(スリランカ)で名前を描くボディペインティングが人気を集めました。

今年度のコロナ禍で一時帰国中の待機隊員2名もブースを手伝い、交流する様子も見られました。



ワールドフェスタ 2020 in長野に参加したOB会の皆さん

9月12日(土)長野市に新規オープンした「ながの表参道セントラルスクエア」オープニングイベント「ワールドフェスタ2020in長野」会場でも、OB会がブースを出しました。色とりどりの民族衣装を身にまとった7名が感染防止対策をしながら、活動パネル展示などで来場者と交流しました。待機ボランティア2名も、来場した子どもたちと一緒にSDGs缶バッチを作り、大活躍でした。また、長野市で特別派遣前訓練を受けている鈴木孝之さんも参加し、OB会の皆さんと交流を深めました。

日本がいかにか開発途上国からの輸入に頼っているかを理解するカードゲームは、子どもはもちろん、大人にとっても新しい発見があるようで、缶バッチコーナーとともに人が途切れることはありませんでした。

OB会副会長の宮原薫さんは「リアルで開催するイベントはコロナ禍前の1月に実施した「千曲万博」以来だ」と手応えを感じていました。

## 色々な言葉で

## ワンフレーズレッスン

～食欲の秋編～

ネパール語で



1. お腹が空いた → भोक लाग्यो। (ボーク ラギョ)
2. バナナを食べたい → केरा खान चाहन्छु। (ケラ カナ チャハन्छु) ※バナナ=ケラ
3. おいしい! → मीठो लाग्यो। (ミト ラギョ)

シンハラ語で



1. お腹が空いた → බඩගිනියි. (バダギニイ)
2. バナナを食べたい → කෙසල් කන්න හිතියි. (ケセル カナ ヒタイ) ※バナナ=ケセル
3. おいしい! → රසයි. (ラサイ)



駒ヶ根訓練所の派遣前訓練では、全体の約65%を語学の勉強に費やします。訓練生が一番多くの時間を一緒に過ごす、語学講師に聞きました!

第3回目は、スペイン語講師のフアン・カルロス先生です!

### いつから訓練所で教えているのですか?

C: 2006年から2011年までは訓練所で講師をしながら、東京海洋大学で研究をしていました。2012年から正式にJICA語学講師として働きはじめました。かれこれ15年訓練所でスペイン語を教えています。

### 出身はウルグアイでしたよね?

C: はい、ウルグアイの首都モンテビデオです。地球儀で見ると日本の真後ろにあって、移動に2日以上かかるとても遠いところです。

### ウルグアイはどんなところですか?

C: 日本と同じく4つの季節があり、地震も台風もない、とても住みやすい場所です。一人あたりの牛肉消費量が世界一で、毎週必ずバーベキューをしています。あと、ウルグアイ人は朝と夕方に必ずマテ茶を飲みます。マテ茶は多くのビタミンを含んでいて、「飲むサラダ」と呼ばれています。ぜひ飲んでみてください!



カルロス先生お気に入りのマテ茶

### 駒ヶ根についてどう思いますか?

C: これまで東京や横浜など大きな都市で生活することが多かったのですが、駒ヶ根は自然に囲まれて景色もよく、人も優しく、とても住みやすいです。天気の良い日は、景色を見ながらバーベキューをしたり、天竜川沿いを走ったりもしていますよ!

### スペイン語を教えるやりがいは何ですか?

C: たくさんの訓練生と出会って、スペイン語を教えることはとても幸せなことです。こちらから教えるだけではなく、多様な経歴を持った訓練生から学ぶこともたくさんあります。70日間の訓練を通して、お互いを知りながら、最後には仲良くAmigos(友達)のような関係性を築けることはとても素敵なことです。

### 先生にとって嬉しい瞬間はどんなときですか?

C: スペイン語を教えた生徒たちが訓練所から海外に飛び立って、一回りも二回りも成長して再会するときはとても嬉しい瞬間です。今でもボランティアスピリットを大切に、世界の困っている地域や人々のために活動している教え子が多くて、とても嬉しく励みになります。

### これから協力隊を目指す方にメッセージをお願いします。

C: 私は色々な国に住み、色々な言語を学び、色々な文化を知り、人間的にとっても成長できました。JICA海外協力隊として海外で活動しながら多様な言語、文化を知ることはとても貴重な経験であり、成長するチャンスだと思います。協力隊にチャレンジする皆さんを、駒ヶ根訓練所で待っています! Nos vamos!

フアン・カルロス先生ありがとうございました!

## スペイン語で



1. お腹が空いた → Tengo hambre.  
(テンゴ ハンブレ)
2. バナナを食べたい → Quiero comer un plátano.  
(キエロ コメル ウン プラタノ)
3. おいしい! → ¡Rico!  
(リコ)

## フランス語で



1. お腹が空いた → J'ai faim.  
(ジェイ ファン)
2. バナナを食べたい → Je veux manger une banane.  
(ジュ ヴー マンジェ ユヌ バナーヌ)
3. おいしい! → C'est bon!  
(セ ボン)

## 英語で



1. お腹が空いた → I am hungry.  
(アイ アム ハングリー)
2. バナナを食べたい → I want to eat a banana.  
(アイ ウォントユー イート ア バナナ)
3. おいしい! → Delicious! Yummy! (口語)  
(デリシャス、ヤミー)



～協力隊週間～

# みなこいワールドフェスタ史上初、 オンラインでの開催決定!!

今年で27回目となる「みなこいワールドフェスタ」は、毎年10月下旬に開催しているイベントで、みなこい地域住民(宮田村、中川村、駒ヶ根市、飯島町)に参加し、体験してもらい世界の文化に出会える機会作りを目指しています。

今年度は、新型コロナウイルスの影響で開催も危ぶまれましたが、実行委員会の皆さんの熱い思いにより史上初めてWebを活用してのオンライン開催となりました。

今年は趣向を凝らし、これまでにない企画内容で開催します。是非公式ホームページを訪問してください。

■会期 2020年10月17日(土)～25日(日)

■場所 オンライン上

※公式ホームページは 10月17日公開予定。

■協力隊週間開催イベント内容

◎バーチャル国際広場

「日本中の協力隊OVの「こんな社会課題を見つけて取り組んでいます!」を公式HPに掲載して紹介。協力隊派遣国とつながって、素敵な商品を販売しているOVもあります。是非、ご覧ください。

◎協力隊週間のあゆみ動画

「協力隊週間の今までの歴史について取材を行い、動画



をまとめてHP上やケーブルテレビを通して公開。

◎オンラインスタンプラリー

「スタンプラリーアプリを活用し、Web上で世界を楽しめるコンテンツを提供。

駒ヶ根訓練所の語学講師による「ミニ語学教室」や、「世界の手遊び」といったJICA海外協力隊が活動している国の子どもたちと、日本とは少し違った手遊びを動画を通して楽しむことができます。

スタンプラリーの景品は、訓練所の語学講師が描いた素敵な塗り絵や世界を感じるLINEスタンプもあります。お楽しみに!

■お問い合わせ

第27回みなこいワールドフェスタ実行委員会 事務局  
駒ヶ根市役所 企画振興課 地域振興係  
TEL : 0265-83-2111(内線244)  
FAX : 0265-83-4348



## 駒ヶ根訓練所内に青年海外協力隊歴史展示コーナーを新設!

1965年(昭和40年)に発足した青年海外協力隊も今年で55年を迎えました。昨年は駒ヶ根訓練所開設40周年を迎えましたが、これまでの協力隊が歩んできた歴史を振り返ることができる「青年海外協力隊歴史展示コーナー」を所内に新設しました。

同コーナーには協力隊の歴史年表パネルをはじめ、昭和40年に初めて派遣された隊員たちの派遣前訓練の様子をとらえた写真や、隊員たちが作ったアルバム、歴代の募集ポスター、周年事業の資料など協力隊事業の歴史にとっても貴重な資料が展示されています。

また、青年海外協力隊の隊歌「若い力の歌」は、NHK朝の連続テレビ小説「エール」の主人公のモデルとなった古関裕而氏が、昭和43年に作曲したものです。その当時のエピソードと共に、非売品でもある貴重なソシートと直筆の楽譜のコピーも展示しています。

この展示コーナーは、ここで訓練を受ける訓練生はもとより、訪れるOB・OGの皆さん、そして一般の施設見学者の皆さんにも広く紹介し、事業理解に役立ててもらいたいと考えています。



発行 独立行政法人 国際協力機構  
駒ヶ根青年海外協力隊訓練所

〒399-4117 長野県駒ヶ根市赤穂15  
TEL.0265-82-6151(代) FAX.0265-82-5336  
E-mail jicakjv@jica.go.jp  
https://www.jica.go.jp/komagane/index.html

JICA駒ヶ根 facebook ページを開設!  
https://www.facebook.com/jicakomagane

JICA駒ヶ根 メールマガジン  
☑ 配信希望の方は jicakjv@jica.go.jp  
までメールでご連絡ください!

JICA駒ヶ根では毎月1回メールマガジンを配信しています。県内の国際協力に関する動きやイベントなど、耳よりな情報をリアルタイムでお届けします。